

2009年4月14日  
日本テラデータ株式会社

## 十六銀行でTeradata DWHを使った新顧客データベースシステムを導入 ー日本の銀行で初めて、MCIF と CTI の DB を一元化しデータの同時処理を実現ー

日本テラデータ株式会社(本社：東京都中央区、代表取締役社長：吉川幸彦、以下テラデータ)は、岐阜県を中心に営業展開する地方銀行の株式会社十六銀行(本社：岐阜県岐阜市、頭取：小島伸夫、以下十六銀行)において、テラデータのデータウェアハウス (DWH) 製品「Teradata データベース 12.0」を使った顧客管理用の MCIF (Marketing Customer Information File) データベースシステムを新たに構築し、2月9日から本格的に稼働いたしました。

十六銀行の新 MCIF システムでは、日本の銀行では初めて、本部営業部門などで利用するマーケティング用の顧客管理・分析システムとコールセンターで利用する CTI (Computer Telephony Integration) システムの顧客データベースを統合しました。日常のコールセンター業務で発生する情報をリアルタイムでデータベースに反映させながら、顧客データの分析や営業戦略の立案を行なうことが可能になります。データベースの一元化によって、システム構築や運用管理に関するコストを削減し、また顧客情報の受け渡しや分散管理が不要となることで、障害リスクを減らしてセキュリティを高めることができます。

十六銀行では、新システムの導入によって最新の顧客の行動やニーズに基づいた営業戦略立案と、具体的な商品開発やキャンペーンの企画を行なうとともに、コールセンターを通じたよりきめ細かい顧客サービスの実現を図っていく予定です。

### 目的の異なる3つの処理を同時実行

新 MCIF システムでは、他システムからのデータ取り込みなどのバッチ処理と、本部営業部門での顧客データ分析処理、コールセンターのオペレータによるオンライン処理という3つの異なった処理プロセスを一つのデータベース上で同時に行なっています。これは、Teradata データベース独自の動的な混合ワークロード処理機能と高速データ処理性能によって実現したもので、Teradata ユーザーのなかでも非常に先進的な取組みとなっています。

このシステムでは、MCIF 用のデータベースの一部を CTI のデータ参照領域として解放し、CTI システムがその領域を通じて MCIF データベース上の顧客情報を参照することで、データの一元化を可能にしています。そのため、同じ仕組みを利用すれば、CTI 以外のシステムも新たに顧客データベースを構築することなく導入できるようになります。十六銀行では、今後、営業活動を支援する新しいシステムの導入などを検討していきます。

さらに、新システムでは旧来の十六銀行のシステムと比べて大量のデータを高速に処理することが可能になったため、これまでバッチ処理の時間を確保するために制限があったユーザー使用時間を撤廃し、24 時間いつでも利用が可能になりました。これにより、これまで以上にタイムリーな経営判断や迅速な顧客対応が実現できます。

テラデータでは、企業の意思決定の迅速化に役立ち、コスト効率化やセキュリティ向上に効果があるデータベースの統合化支援を、今後十六銀行以外の企業に向けても進めていく予定です。

以上

###

Teradata Corporation について

テラデータ・コーポレーション(NYSE: TDC)は、データウェアハウジングと高度な企業向け情報分析技術を提供し、経営のための知力の向上を支援する世界最大規模の企業です。テラデータは世界 60 カ国以上でビジネスを展開しています。

Teradata は、米国テラデータ・コーポレーションの米国およびその他各国における商標または登録商標です。

###

■ 本件に関するお問い合わせ先

日本テラデータ株式会社 コーポレート・コミュニケーション統括部 篠田

TEL:03-6759-6151 / FAX:03-3553-1037 / E-Mail:[tdpr.jp@teradata.com](mailto:tdpr.jp@teradata.com)

ホームページ:<http://www.teradata-j.com/>